

令和5年7月26日

市政記者各位

福岡市美術館

特別展「日本の巨大ロボット群像 —巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現—」を開催

福岡市美術館では、9月9日（土）より「日本の巨大ロボット群像—巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現」を開催致します。

1963年のテレビアニメ『鉄人28号』放映から今年で60年。日本では脈々と「巨大ロボット」が登場するアニメーションが制作されてきました。本展では、歴代巨大ロボットのデザインと映像表現の特質を紹介しながら、その魅力に迫っていきます。

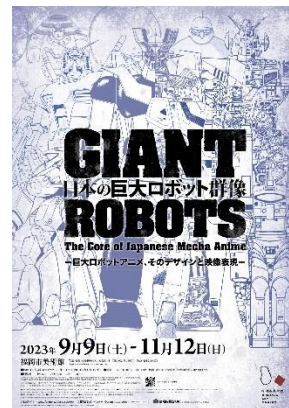
つきましては、本展の広報にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

特別展

日本の巨大ロボット群像 —巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現—

初の巨大ロボットアニメ『鉄人28号』放映から60年。日本のアニメーションにおける巨大ロボットのデザインとその映像表現の歴史を辿り、「巨大ロボットとは何か」を問いかけます。

会期	令和5年9月9日（土）～11月12日（日）
会場	福岡市美術館 2階 特別展示室
開館時間	午前9時30分～午後5時30分 9月～10月の金・土曜日は午前9時30分～午後8時 ※入館は閉館の30分前まで
休館日	毎週月曜日 ※9月18日（月・祝）、10月9日（月・祝）は開館し、9月19日（火）、10月10日（火）は休館
観覧料	一般1,600円、高大生800円、小中生500円



※展覧会の詳細は公式サイト (https://artne.jp/giant_robots/) をご覧ください。

関連イベント

記念講演会①「日本の巨大ロボット群像とは」

日時	令和5年9月9日（土）13:30～15:00（開場13:00）
会場	福岡市美術館 1階 ミュージアムホール
講師	宮武一貴氏（メカニックデザイナー）
定員	180名
料金	聴講無料、ただし本展観覧券（または半券）もしくは電子チケット画面の提示が必要。
申込締切	8月18日（金）必着

記念講演会②「80年代のロボットアニメ」

日 時	令和5年9月10日（日）13:30~15:00（開場 13:00）
会 場	福岡市美術館 1階 ミュージアムホール
講 師	荒牧伸志氏（監督・メカニックデザイナー）
定 員	180名
料 金	聴講無料、ただし本展観覧券（または半券）もしくは電子チケット画面の提示が必要。
申込締切	8月18日（金）必着

記念講演会①②申込方法

【WEBサイトでお申し込みの場合】

アルトネイイベント申し込みページよりお申し込みください。

https://fihb.f.msgs.jp/webapp/form/22521_fihb_361/index.do

【ハガキでお申し込みの場合】

ご希望の講演会名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名（ふりがな）、電話番号、参加人数（1通につき最大2名まで受付可）を明記の上、下記に送付ください。

〒810-0001

福岡市中央区天神 1-4-1

西日本新聞イベントサービス内「日本の巨大ロボット群像・関連イベント」係

※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

※当選者の発表は参加証の発送をもってかえさせていただきます。

※ご応募の際にいただいた個人情報は、本イベントの連絡にのみ使用させていただきます。

【問い合わせ先】

経済観光文化局 美術館学芸課（担当：山木、山田）

TEL: 092-714-6051

GIANT ROBOTS: The Core of Japanese Mecha Anime

Events

【関連イベント】 ※いずれも会場は福岡市美術館1階ミュージアムホール

記念講演会①「日本の巨大ロボット群像とは」

日時：9月9日(土) 13:30～15:00(開場13:00)
講師：宮武一貴氏(メカニックデザイナー)
定員：180名
料金：聴講無料、ただし本展要観覧券(または半券)もしくはQRチケット画面の提示が必要。
申込締切：8月18日(金)必着

記念講演会②「80年代のロボットアニメ」

日時：9月10日(日) 13:30～15:00(開場13:00)
講師：荒牧伸志氏(監督・メカニックデザイナー)
定員：180名
料金：聴講無料、ただし本展要観覧券(または半券)もしくはQRチケット画面の提示が必要。
申込締切：8月18日(金)必着

【記念講演会①②申込方法】



artne.jpのトップページもしくは右記のQRコードよりお申込みください。

ハガキの場合はご希望のイベント名、郵便番号、住所、参加者全員の氏名(ふりがな)、電話番号、参加人数(1通につき最大2名まで受付可)を明記のうえ、〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞イベントサービス内「日本の巨大ロボット群像・関連イベント」係まで。

※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。
※当選者の発表は参加証の発送をもってかえさせていただきます。
※ご応募の際にいただいた個人情報は、本イベントの連絡にのみ使用させていただきます。

【関連イベントに関するお問い合わせ】

西日本新聞イベントサービス内「日本の巨大ロボット群像展」係
TEL:092-711-5491(平日9:30～17:30)



加藤直之・宮武一貴(宇宙の戦士)(1977年) ©スタジオぬえ

■観覧料：一般1,600円、高大生800円、小中生500円

※大学生以下の方はご入場の際、学生証や生徒手帳をご提示ください。※身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の提示者とその介護者1名および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者、および未就学児は観覧無料

【チケット取扱い】

ARTNEチケットオンライン(<https://artne.jp/tickets>)、チケットぴあ(Pコード：686-520)、ローソンチケット(Lコード：83534)にて販売中。



△ARTNEチケットオンライン

○図録付きチケット 3,900円(税込)

【販売場所】 チケットぴあ(Pコード：686-520)のみで販売。

※数量限定、なくなり次第終了

※電子チケットは購入の際に各プレイガイドによって各種手数料が発生する場合があります。ご了承ください。



■音声ガイド



ご利用料金：700円(税込)

本展音声ガイドのナレーションは銀河万丈さん、水樹奈々さんが担当します。ぜひ、ご期待ください！

銀河万丈さん(声優・ナレーター)

TV番組のナレーション、洋画の吹き替えで幅広く活躍。ロボットアニメでは、『機動戦士ガンダム』(ギレン・ザビ役)、『戦闘メカ ザブングル』(ティンブ役)、『装甲騎兵ボトムズ』(ジャン・ポール・ロッチナ役)に出演。

水樹奈々さん(声優・歌手)

『NARUTO』シリーズ(日向ヒナタ役)、『ONE PIECE』(小紫役)をはじめ、アニメ、吹き替えなど多数の作品の声を担当。歌手としてもライブを精力的に行い、ラジオパーソナリティ、ナレーター等多岐に渡り活躍。

○公式サイト https://artne.jp/giant_robots/

○展覧会公式ツイッター @giant_robotsten

Q #俺たちの巨大ロボット

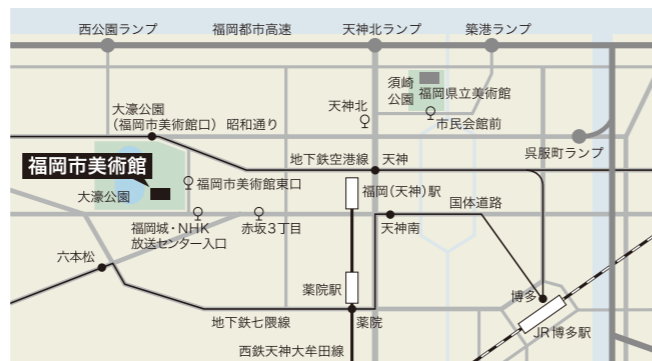
📷 会場内撮影OK! (一部作品を除く ※フラッシュ・動画NG)

〈福岡市美術館へのアクセス〉

○地下鉄：(空港線)大濠公園駅(福岡市美術館館口)下車、徒歩10分。(七隈線)六本松駅下車、徒歩10分。

○西鉄バス：[系統番号13・140]で「福岡市美術館東口」下車、徒歩3分。[系統番号6・7・12・113・114・200～206・208]で「赤坂三丁目」下車、徒歩5分。[系統番号6-1]で「福岡城・NHK放送センター入口」下車、徒歩3分。

○車：福岡都市高速「西公園ランプ」から5分。福岡市美術館専用駐車場(有料：1時間/200円) 利用時間：9:00～21:00(開館日のみ) ※週末、祝日等は大変込み合います。公共の交通機関をご利用ください。



福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL 092-714-6051 / FAX 092-714-6071
<https://www.fukuoka-art-museum.jp>

※本展の予定や内容は、状況により変更となる場合があります。変更の場合は展覧会HP等でお知らせします。ご了承ください。

GIANT ROBOTS

日本の巨大ロボット群像

ROBOTS

The Core of Japanese Mecha Anime

—巨大ロボットアニメ、そのデザインと映像表現—

2023年 9月9日(土) - 11月12日(日)

福岡市美術館 〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL 092-714-6051 / FAX 092-714-6071
<https://www.fukuoka-art-museum.jp>

■休館日：毎週月曜日(ただし、9月18日と10月9日は開館し翌日休館)

■時間：9:30～17:30 ※9・10月の金・土曜日は20:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)

■主催：福岡市美術館、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、テレビ西日本、チケットぴあ九州、LOVE FM ■助成：(公財)福岡文化財団

■協力：AIC、AICライツ、エイケン、エディット、KADOKAWA、キングレコード、クロスメディア、KOBE鉄人PROJECT、シグナル・エムアイ、スタジオぬえ、創通、ダイナミック企画、東映、東映アニメーション、東北新社、トムス・エンタテインメント、博報堂DY・エニックス&ピクチャーズ、バンダイナムコフィルムワークス、光プロダクション、ピクチュアエスト、フライングドッグ、Production I.G、ホークス、メディアウェーブ、ライツ・イン

■企画：西日本新聞イベントサービス ■企画協力：廣田恵介、タルカス(五十嵐浩司) ■後援：福岡県、福岡市教育委員会、(公財)福岡市文化芸術振興財団、西日本鉄道

©AIC ©AICライツ ©スタジオぬえ ©創通・サンライズ ©永井豪/ダイナミック企画 ©東映 ©光プロダクション/教島重工 ©光プロ/ショウゲート ©1982 BIGWEST

福岡市美術館
FUKUOKA
ART
MUSEUM

GIANT

日本の巨大ロボット群像

ROBOTS

The Core of Japanese Mecha Anime

初
の
巨
大
ロ
ボ
ッ
ト
ア
ニ
メ
『**鉄人28号**』**放**映から**60**年。
日
本
独
自
の
ジ
ャ
ン
ル
で
あ
る
「**巨
大
ロ
ボ
ッ
ト
ア
ニ
メ**」**の**デ**ザ**イ**ン**と**そ**の**映**像**表**現**の**
歴**史**を**紐**解**き**、「**巨**大**ロ**ボ**ッ**ト**と**は**何**か」を**問**い**か**け**る**、**か**つ**て**な**い**展**覧**会**！**

本展は、日本のアニメーションにおける巨大ロボットのデザインとその映像表現の歴史を辿り、「巨大ロボットとは何か」を問いかけます。

架空のロボットが登場するアニメーション(ロボットアニメ)は、いまや日本の大衆文化の一角を占めています。横浜に登場した「動くガンダム」を始めとする架空の「実物大」ロボットが日本の主要都市に存在し、それらは今や日常的な風景となっているほどです。

『鉄人28号』(1963年)をロボットアニメの嚆矢として、その後『マジンガーZ』(1972年)の大ヒット、そしてロボットアニメの流れに新風を吹き込んだ『機動戦士ガンダム』(1979年)の影響下、現在に至るまで多数のロボットアニメが制作され、魅力的なロボットがデザインされてきました。他の国のアニメーションには見られない、独自の進化と広がりを見せてきたそのデザインの変遷には、空想上の荒唐無稽なロボットという存在に映像的な「リアリティ」を与えるためのデザイン上、設定上の創意工夫が凝らされ、ファンを魅了してきました。

本展では、『鉄人28号』から近年のロボットアニメにおけるロボットのデザインと映像表現の歴史を、それらの「リアリティ」形成において重要な役割を果たした設定上の「メカニズム」と「大きさ」を軸に検証していきます。その上で、「巨大ロボットとは何か」を観客の皆さんとともに考えていきたいと思ひます。

みどころ① 巨大ロボットの「メカニズム」に注目！

「搭乗」、「合体」、「変形」は巨大ロボットアニメの、いわば「お約束」。玩具展開を前提としたデザインには工夫が凝らされています。が、そのデザインに隠された「メカニズム」には、それなりの合理性があります。本展では、そうしたメカニズムの魅力を、デザイン画やアニメ劇中の場面などから制作した造形物によってお伝えします。

みどころ② 気分はパイロット？ ロボットの「大きさ」を体感できる！

巨大ロボットの「大きさ」は、アニメ劇中でいかに表現されてきたか？1980年代になると、巨大なロボットは実用機械レベルに小さくなり、同時にその表現はリアリティを増します。現実にあるようなそうしたロボットたちの一部分(あるいは全部)を、劇中で設定されたとおりの大きさに引きのばしたらどう見えるか？アニメの登場人物になった気分で鑑賞ください！

みどころ③ 「内部メカ」にもえる！

架空のロボットが、あたかも本当に存在するかのように、「内部透視図」が描かれてきました。装甲の裏側、そして隙間にのぞくメカは、架空メカの「実体化」への欲望なのか、制作者のフェティシズムか？現在ではプラモデルや玩具でも当たり前のように再現されることが多くなったロボットの「内部」に注目します。

みどころ④ メカニックデザイナー・宮武一貴による圧巻の巨大絵画を展示！

宮武一貴氏(スタジオぬえ)が、巨大ロボットをテーマとした描きおろしの巨大絵画を本展のために制作しました。美術館ならではの大幅な画面で、宮武氏の描くロボットワールドを堪能してください！



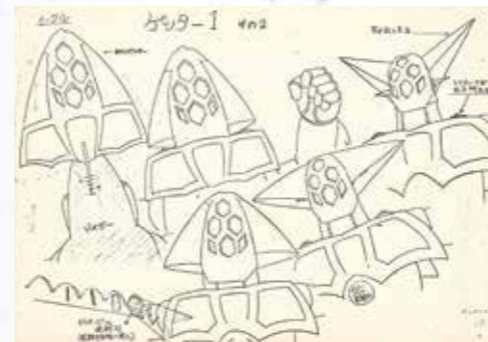
スーパーロボットは会社の備品
『地球防衛企業ダイ・ガード』(1999年) ©XEBEC・フライングドッグ/創通



ルパン三世に登場するロボット兵・ラムダ
『ルパン三世 PART2』(1977年) 第155話 さらば愛しきルパンよ
原作: モンキー・パンチ ©TMS



本編物語を牽引する劇中スーパーロボアニメ『ゲキ・ガンガー3』
『機動戦艦ナデシコ』(1996年) ©Production I.G / ナデシコ製作委員会・テレビ東京



これがゲッター1の変形プロセスだ！
『ゲッターロボ』(1974年) ©ダイナミック企画・東映アニメーション



あの有名ロボットを劇中の設定サイズで体感できる！
©創通・サンライズ



あなたが憧れた巨大ロボットが美術館に出現！